



周江譜

と

らゑ坊撰

へ 5
1289
5止



名月やぬるともむしほと 今 友袖
さしほ 徳川ハ坂のぬえんえ 又比
るまのあふもさし かの月 ぬ化
ま指と 徳川 里あつて かの 牡丹 異蝶
草花や 所の 新しむいさる 子供 八月
梅うきを ねも 四かや 春の 春 西以
信ハ 徳川 梅の 徳や 三月 一ね 信
眠くささ ちきりて 雲や 春の 今 三砂
知十

押入よきのもあつ 竹のちね とん 板中
よのちね 徳川 春のあつ 春の 春
しきや 徳川 春の 掃ちさね 信五

高山

綿畑と隣入 春のあつ 信角
新もの 女 徳川 春の 柳うき 信松
徳川 春の や 春の 春の 春の 春
徳川 春の 春の 春の 春の 春
徳川 春の 春の 春の 春の 春

わさくらの夜いづるをこゝに 萩 一酉
風やこゝろかてふるゝ浮石 堂 可睡
こゝろとこゝろかて 深 繁 像 棠 碎
鈴の塚や二入のおちろ 月 己 干
こゝろとこゝろのちかや 衣 衣 迂 哉
草花や実さしゆゝさなる 白 推
あ人の園いぢりて 石 々 々
園さのこゝろとこゝろかや 三 々 々 倚 菊

蓮池よ 修府のゆゑに 蛙うま 路中
二階しゝのちかや 三々 々 々 其 稿
垢はらゝねとほよや 後の月 十 十
葉のいれ 縁い 悟氣のあ 卜 卜 下 格

高園

あまのちかや 日とありて 粟はら 々 々 赤 菊
花をいゝちかや 園の 胡 蝶 々 々 紅 蘭
新のちかや ねとありて 女 帝 々 々 土 毛

花のりつちしらんまの 葦作 玉津
婦川の流もまうして 田極作 支川
夕影のむやまうしう ち名所け 雨春
あしおひやうしう 此後のみ婦 右卜
まゝえんまうしう かのむかやしたま 里風
おれの例もまうしう ちぼろま ちろ
幸の笑しうしう ちまのむか 宇板
しうしうしうしう ちまのむか 儿洞

花のりつちしらんまの 葦作 玉津
婦川の流もまうして 田極作 支川
夕影のむやまうしう ち名所け 雨春
あしおひやうしう 此後のみ婦 右卜
まゝえんまうしう かのむかやしたま 里風
おれの例もまうしう ちぼろま ちろ
幸の笑しうしう ちまのむか 宇板
しうしうしうしう ちまのむか 儿洞

燦輝やうふ名のまはる十程 剌 日不連中 里及

ふちみいりいり 肥ゆるほくせの 里桂

踊場のくさくさ あつや 雉りも 鳴曰

わのよれ縁きり うちうり ちよふり 羅花

梅の香れうらふ ぼくひや どのの月 十里

古仙事やぬるに ぼくきの市奏 履信

昔のままと勤使い ちよふり 田極 未周 日不連中

おん子のなごし 訓極むら ちよふり 若木

うらや野のまはる 野と 居北

ふちみの中 ちよふり ちよふり 佳朴

あつれややあつり ちよふり ちよふり 巴流

蓮のまはるやあつり ちよふり ちよふり 日不連中 次章

川橋の御まゝ ちよふり ちよふり 和若

かたれも見よかちよふり ちよふり ちよふり 磯石

名月やちよふり ちよふり ちよふり 積亭

公のちよふり ちよふり ちよふり 田極 雨石

四六

六

初てし後のしりやうとむたれ

石動

道の傍へ天祥居るにや花江 方望
木のくは法修くくくくくく 眉泉
こ味路の傍へるるあうくくくく 一葉
錦橋やちわいしに雲れ向け 風吹
柳くくくくくくくくくく 耳掬
ま存や鳥をさく起て 壺汀

たぐりし帯あやめや 雛の 浜 波文
裸足の湯あしりくをきり 楚洞
まじりのささやまのひらり 可由
又思ふにゆけよ 葦の尾 磯 島帆
あまのくに乳着るるをうい 旅子 廣水
おれやうらうらくくくくくく 雲江
まじくや字名もくくくく 娘入 里 松録
苗代のつら子もゆき 柳くく 己者

若連中

及ぶやうにさかすまやのあゝ菊 里芳
 ハ朝の露さうらゝの 山田の 名柳
 林さうらゝの 日影やいづれ 至由
 ぶさささのささやあやせ 垣邑
 音久らのぬしきぬやふり 狐家
 ささのささ 掃てぬらふ 柳の 季世
 藤くやふてささのささ 其上
 ちりぬれさやささてぬらふ 分 托重

初見

梅ささのさささささささ 音吹
 さささささささささささ 柳土
 牛のさささささささささ 羨山
 田ささささささささささ 杜容
 さささささささささささ 呂仙
 ささのささとさささささ 巴都
 さささささささささささ 仰之

四十一

新雪やあらしれものも麻の如
 文月の文は雲かおしらみの月
 湯よふとほそくありと霧の林
 といくもよもつらとありくふの月
 けし木や初の新そよむ井戸を流
 隠れあや草のきよき炭きり
 数段急や後のつらとあり
 木ゆくりれ平し碎ある子るに
 乙季

紫垣のつらとありけしらの月
 きてるお吹雪のつらとあり月
 衣袴のきしほとありけし
 お代もほとありけしけし
 酒午のふきにほとありけし
 七段やまきとありけしけし
 けしけしとありけしけしけし
 お梅のふとありけしけし

藤謳
 星達
 巴前
 有菊
 乙季
 乙亥
 乙亥

曾江六

十

竹と介してらるる路もやまの香
 乙香
 苗作や信よのくま 唐子也 雨国
 虎猫の身て眠れりや白牡丹 乙子
 了らぬはらふ人ともう 後の月 志望
 ちとせしちしひりりやうの月 荻人

徳豊之部 七尾

杉越へくはるる かなる月 司職
 荻とらふも此のたひや 薺の目 美味

赤備へ鳥も配く 檜木 和荊
 梅咲て白はれあつと 色の月 有己
 花はつと香にほほはれゆく 依女
 猪もさへられた 心葉の 依夏
 仲さしお見え 命を 史員
 ちとせの中 ちとせや 茶は 宜山
 ちとせの中 ちとせや 花は 呉天
 ちとせの中 ちとせや 苗は 几疎

猪垣にうぐ角をひひつてはるる 遠燕
 萩のよれはるるもをふりあふて 全車
 福書やあはれはれのみりしり 得莫
 ろ糸やひひつてはるるもをふりあふて 知来
 争ひのまの我あも不二の福書は 止蟹
 後獄七はるるふてふやあひあふ 陳三
 る士の喧嘩よりやを詠 花 関之
 虫干とはよるるやあひあふ 七書

鶯の鶯は花もまらるるや地の蓮 百童
 梅子やあひあふるるやあひあふるる 鳥月
 けふに惜れはるるありかたこも 義回
 山花より所敷よりあふるるやあひあふるる 美北
 坂の山あふるるもあひあふるる 冠否
 ろ糸やひひつてはるるもあひあふるる 音人
 春の月あひあふるるやあひあふるる 青子
 猪の身に帯るるもあひあふるる 凡書

娘石舎も折れて牛と添ふ保山 吾柳
川杖や窓よきとら 黍の町 自松
夕くぬ日や春よの梅も咲掛ひ 湖月
名月や丁の雪およ 人の 夢 芦由
ももよふおとくまれて月と水 杯量
曇火や売う巻の返け一巻 吹九
白雲の鏡もくもれを田代 飯田 怒悠
山崎くつりふと化新ふやまれば 既昔

梅も折れて月と添ふ保山 吾柳
夕くぬ日や春よの梅も咲掛ひ 湖月
名月や丁の雪およ 人の 夢 芦由
ももよふおとくまれて月と水 杯量
曇火や売う巻の返け一巻 吹九
白雲の鏡もくもれを田代 飯田 怒悠
山崎くつりふと化新ふやまれば 既昔

一冊二二

十三

鶴のむらにありたり 早の 邑子

加賀部 津幡

あし下以 仰も ちあ 松の家 枝鶴

田よりあふ 登れ 下や 都云 素白

白きあいの 清くや 田極 益 漏月

清くこと 下んに ちる 清い 麦取

清く ちや 輝も 肌や ちるの 柳 板凡

意不し ちるの けいあや ち板 引 一凡

板松より ちるの ちるの 板凡

ちるの ちるの ちるの 板凡

板松 ちるの ちるの 板凡

合記

板松 ちるの ちるの 板凡

板松 ちるの ちるの 板凡

板松 ちるの ちるの 板凡

板松 ちるの ちるの 板凡

梅の香もよまへしうららかにほろけり
和梅

隔り田のあひの廣る蛙の音
凡曲

五川

離れりてあはれかたけり梅のむ
山鼓

木倉のこころもあはれしむね
山丈

唐土に風とじく日ややめの花
非亮

菊のよあはれしむね梅の花
野成

雪あはれしむねやしらぬ
柳糸

ゆきあはれしむねやしらぬ梅のむ
こま

高松の神もあはれしむね梅の花
如流

飛雲の音にほろけり柳のむ
志志

柳のむよあはれしむねや
佳云

まきふしむねのよあはれしむね
柳のむ
柳内

飯橋のむねの主ある柳のむ
里翁

よあはれしむねのよあはれしむね
柳のむ
珈涼

ゆらぐ濃霧の音とまきのこころ
を梨

雪の菜にまじりてふるうな 沂者
 う久ふ水や谷より連の流もは 手裁
 美きと悴子もふり一き切 和菊
 雪やうふへ去程も妻せん一 席柳
 うふ水の梅も推さやありて 八子
 鞠もて月とまふそ柳も 其容
 幸縁の松もまふそ 右と

小松

悴あり柳やうふく守 乙甫
 雪と松の香もまふそ 望冬
 垣火の早れもあれや 羽奴
 新のりたりあもやん 板屋
 雪柳も推さやあり 蛙水 之仲
 雪産もふもまふそ 善の種 河南 素珍
 雪舟のあまふとまふそ 乃病
 雪舟のあまふとまふそ 是宿

草のむね中ししもの鳥うま
ト杯
鶴のぬてぬれ可る
和井
まきりし下枯ゆし
まきの日知れ
糸弓

大聖る

神のむね入るる
枯野うま
世信のむねつら
て福よ
ふしゆし
まの福ありゆり
花
洪水
白ふの福し
まの福し
花
鹿角

短夜のまの喜はく
まの福し
いふゆやゆれ
ははら
ちれまの
まの福し
まの福し
念仏のふるま
まの福し
お村へ
まの福し
まの福し
あまの
まの福し

波神
石五
一帆
波虹
可卷
探路
柳笑
虹吟

三浦の産起てあれて也 爲す産 里産
 白鷺の養へはつれい 牡丹 うちよ 湯夕
 酒よくく 新しあをを 新きふ 一川
 拓子木の本 魂やふんで 郭云 梅里
 垣根くく ちくろの 笑とくれい 桂枝
 ふりく 舞うる 磁くふ 巴丘
 笠の裾れ 付あきく ちの 書 秦櫛
 爲あやちりく 早れぬく 吸 里産

山あきく 角のきくく 外 呉竹
 麦畑の 沿くちりく 山むき 存在 荷枝
 夕きや 傍と 越わく 日かきく 加席
 川 傍や 細くちりく 月れ 孰 勇試
 草塚七 富士の 伝きや 今あ の書 巴流
 入相の 丘 咲かぬ ねくく 又 赤真
 きくかぬく ちくく ちりく 市れ 西流 可喫
 さく の 物きく ちく ちりく 里産

元ふや月ふらふら 木と藤の夕一葉
 白藤の常物せし 天の川 草綿
 夕まや相せれねも 片おもひ 枝交
 川りし 越て 新きり 今鳥の枝 五柳
 夕まやちよ 鳴きれ 一かきこ 萩露
 燈りし ちや 宇治の子 摘のゆり 咲 赤露
 望えに 藤と ぬりて 柳の 泉菊
 ぬのふらふら なる 柳の 輝文

泉 碎も 鄙 弱も ちかて ちよ 小衣
 ろろまや ちよ 新の 育と ちよ 萩露
 福の ぬの 書と ちよ ちよ 帰帆
 猫の ちよ ちよ 居の 世話や ちよ 遊鶴
 子 柳の 浦あり ちよ ちよ 巴水
 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 白鶴
 ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 政白
 藤の ちよ ちよ ちよ ちよ ちよ 梅石

昌久

流石

五十九

虫の鳴も石も音も里に
 名守とらよ捨てや九月
 ろもや出よわやあゆり
 けきるめりもあや火
 掃ハや口かて火燈の
 山と出や
 閑芝

越前之部 福井

五柔られ拂ぬる色の
 月と餅よてふて百合の
 六松
 松前

餅ももほけりも家の
 新室のれや燕もふ下
 小娘の文のあふりく
 花 有施
 翠の尻かけりけり葉
 花 花溪
 共くと咲時若のむし
 糖遠
 学寮の窓と配くや
 紅帆
 ちのまもほりくま
 可未
 けそくれ葉をきり
 ねのと
 報者

習五十六

二十

くらよはまてふのちや大根 川 芦笛
 志せりまきとあひまのちやむき 秋更
 ふしやよとちあさよふかてこ 田中
 ものちる後いほあまーうちあ月 園指
 佐保姫のついでにや川柳 云等
 ときあやひよくくくむ田舎 梅葉
 りあよねふに浄ちう田雨の日 宇栢
 菜のむの後い珠のまよぬうま 可推

梅葉やまのうれはるれ 時 其え
 七夕のこまゆや 鳴 かしこ 貝宮
 りあよほよまのまきや菊えのり 灸志
 川原居もまのかさねや菊自悟 山指
 ねいひや藤もはまよと 碎ころ 和青
 ぶゆり、松や屋むのふとまられ 和角
 ちのなとほかまのゆやぬ牡丹 明店
 まのふもあひあやあまふ山 柳青

清くも在一帯に流やうあは月 柳葉
 りまも七権よりかたけのむの流 星夕
 る下よのまねりさるるさるる 柳葉
 川まのなとやねに若のむ 了柳
 ときあのおやあふあのかくれさ 不流
 夕虹のつらへ流るるむりさ 柳葉
 文芸にむのうさやあむいし 如柳
 ちよよ舟のまふささむいむ 蝶男
 百合

ちよとるる柳やむいす河加へ 了
 柳さると藤にささむい夕日外 貝瓦
 福つあふささるるやの流るる 柳葉
 むのりや松舟あふるよさ 栄夜
 めく川に笑うさ流くむの流 白白
 花陰のふれも七際ささ木桂 懸換
 流ささの月流るるさる 花笛
 ちよのけささささささの流 不柳

三國

多町やなまの なるれりよふ以 輕雨
 多町に後とよけりやる茶前 以貫
 ちよーやまのよこしー新の砂 巴浪
 孫よると屋とちしてある坂を以 栗也
 うふらの懐とちや 新の抄 鳥林
 苗代や常りー 録のさぬ阿て 陸芝
 まつーや糸 踏く山を 鮫 鮫 朝河

草花や一帯 珠のーろ乃 舟川
 とうとうし 杖の物もやるのれと 汀報
 石坂のちーくー魚や大板 引 一統
 ねいしんや 楓やまーくー 歌の傳 佐和
 妻町の年よも入るや 郭云 拾推
 まくれむよ 飽てやり 葵 素然
 新公伝や 胃場ひの 歌の伝 暮海
 新公や山の 内史の 爲化 報 己伯

そとつと移しほよ月おの
氏よりしちせらや苞にそ稔 止前
きおや竹汲の中おれいれ 麦里
るのりやそそちよるも 季和
筆にちひそちひ 十お外 昨囊

舟中

こふちのさふしそふも 市往
襦ややうちつゝの あら公伝 里泉

川杯のち々ちつゝ 舟中
弓張のちんまらち 既柳
漆風のいとわくや 窓簾
んく判れ仰の化粧やきしの衣 筒帛
え物の行いし鞠あつとよの月 杏路
苗作よかかてきよめひや 止竹
牛ふるにゆりまぬや 五柱
まゐるのきよふほけら 孤莖

噴の早らそちぬや 栗の 上 吳笠
 う保そちぬ 夜雨かたしん 仇の系 山杖
 とい極よ 蘇生一てみよ 水 日不連中 降的
 蜀主あや 拂よにこよ 日の縁 四土
 行まると 送して 有と 言寝水 根言
 破の味の ころころ ちるや 梅の玉 愛於
 竹るや 月七十おの ころと 衣 羽足
 缺録よ ちの 名ありて 水金水 山文

親ゆき礼よ 寺のほそ ぬ 儿眩
 麻七角ね 一てふと ぬ 存水 羽衣
 山房や 中ぬ 貯く ころと 物 五菊
 堂のふちん 日ころと 衣 加へ 錦市
 榎ころあぬ ころと 蘇の 矢あり 矢 葵腹
 老のさちの ころと ころと ころと 堪 紅帆
 蕙 吟よて 稗史の ころと 存水 柳鼓
 尾 建てふ ぬ 存水 ころと 存水 玉盃

清波の磯よかゝるや 船の比ひ 柳東
 白帆よ白雲にたゞし 離れぬ 花梅
 舟のよみ掃てちかきる 石まふ 花江
 名月や舟にゆへにあり 笛のよ 洗衣
 川舟や帆よ吹きまぐる 終りの夜 山高
 七浦の町や 町下かへり 山 力隣
 虎竹よかゝる 柳のよ深江 桂夕
 まるや花よ 花と花よ 市色

籠るれ筆によゝるや いくし 衣車
 あふ坂やゆゑに 何き 鳥 丁 板市
 雪の葉よわらぬとや 雪の 畑 白羽
 従儀の言よ 忘れぬとや 白 赤字
 墨とて竹のよ 一 郭云 笹舟

花弾之部 高山

糸口の一ちかき 花 柳 夕 赤 午有
 方角とてや 鞍馬の町とも 花鳥

川之林と踏こくくや 鶴の如く 如由

花の香とこころの静けさ 女雅

夕暮のやまの静けさ 芳田の栞 斗作

木枯や 神楽松のよさを 笠吹

まじりし人を 追ひし 信列 栞田 其傳

美濃部 山縣

おまや 虎の背中 此物 右靴

おまよ 鹿の子 此物 東羽

おまよ 鹿の子 此物 栗儿

園とあそびのころ 此物 不音

さくらんぼ 此物 雛 分斗

早の朝 此物 所考

芥子の香と 此物 改酒

天の心 此物 たて

まじりし 此物 李相

寝たて 此物 去芝

越くから片くすむうふ 柳花
あ〜〜きわくす糸ねふ糸ね 杜堯
深〜〜くわく白〜〜く白く 童平

加納

お〜〜く〜〜くお〜〜くお〜〜くお〜〜く 女
木枯や粘の〜〜く〜〜く 扇のきき 扇坂
〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く 柳花 別裁

西の店

糸〜〜れて白く〜〜く〜〜く〜〜く 西の店 其家
〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く 水花

三松

思ふ合の後守て胸の夕文 花流
葉のむれ〜〜く〜〜く〜〜く 田橋 芦竹
〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く 柳史
〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く 巴東
有〜〜て〜〜く〜〜く〜〜く〜〜く 雨音

向わくわく柳とわんぱくさくら 桃蹊

若草よちや 野馬のふらふら 孝老

娘婿種やうらやう 豆衣 東松

竹の折るさうさうさう 木のき 一春

お松とおれやうららの 化粧ら 乙代

海老の 海老や ねれ くらん 中

園

さくら子にさくら 菊の梅 木調

里人の音柳とやほさくら 千穂

ふふ柳の葉とさくら 菊の梅 雨跡

蛙子の小田れおさくら 水加 上^{有知} 榎方

大久田

千のうらやかりてお松やうらら 松暮

一とちりおとさくら 楊^カ花^ハさくら 竹茂

梅物金とさくら 楊花さくら 糸江

おれらのおとちり 娘菜 小 菊茂

子苗とぬもにわくの 蝶 とうふ 許隣

律院よ新賣のあはれききうふ た耳

桐のまゝも心はうそ 秋 さらぬ 洞宇

あ人の里にうらまき 石 とうふ 因茲

う田さく汐干や雛の田うら 石 二嶽

ぬのうらまきうらまき 柳 とうふ 長幸

やねひれうらまき 花女の 放ち 詞 吾柳

白菊のほちもうらまき 綴ひ とうふ 吉女

ゆきまはうらまきあまむくや後の月 晴雲

涅槃花やうらまき 名はれまのむ 国推

夕和ナキの柳うらまき 日記 とうふ 仙毫

虫干や 箱の書物の 管ひうらまき 日記 赤産

ちのうらまきあまむく 花子 桐 細久下 湖小

る辭よ所走のまきうらまき 日記 初水

雪のあまむく 及中 とうふ きの梨 柳誌

中津川

四六

景

音聲のこゝろとさ〜く〜
 草極の極さ〜
 城跡のまを〜
 葉のこや肥てもあるを敷
 雲はけ〜おちぬれは〜
 子表の夕日さ〜むやと用
 入お〜ちるぬも〜
 急劇
 衣加川
 樫の火
 倭の
 其遊
 十八
 有先
 極二

山名邑

音聲のこゝろとさ〜く〜
 草極の極さ〜
 城跡のまを〜
 葉のこや肥てもあるを敷
 雲はけ〜おちぬれは〜
 子表の夕日さ〜むやと用
 入お〜ちるぬも〜
 急劇
 衣加川
 樫の火
 倭の
 其遊
 十八
 有先
 極二

積もふれきてあはれさうの雪 遠思

けふうたて子猫のねみ線瓦うま 和羽

梅うきやう心ぬれくんと 山 若丸

去波郡

くさくさ 霧てふささる む火水 松軒

よみゆとみきりちりり 蕨のよ 洞水

久し里

まゆの柄よ 霧——くは月 伯夜

妻秋やあまのつらさぬ後の塊 東井

涼——このあまのつらさぬ後の塊 以庵

名月やうらみあやの 巨白 大寺

一守るやう——くは ねの月 星泉

ふゆのふかきさきさき 春袋

霧のうらみあやの 春袋

あまやみ折と 白あき 目 海直

郡上

夜おひの人とちりる時 子きうらふ 慈水
 菽羹や海をゆきぬ 深狭柳 小糸
 めくよれゆく 柳やきかほく 睡魚
 さかきしめくく ちりつた 瓢うら 有隣
 さきちけん 月かきくゆふひんらと 山 長え
 甲もられしひきひや 新の 柳 文等
 梅のよめなるよや ちきもしねひ連 俗と
 川林のよめや ちきひき 喜喜きのむ 野雪

もつるほくしめくく 葉らよ 山 登る
 こたしめくく 葉れを 藤やちき 山 遅く
 こたしめくく 葉やちき 郭 云 花 編
 柳しん ねくしめくく 片折戸 曹官
 傘とくしめくく 海黄や 文衣 喜仙
 ちけんの 裾やちき ちいし 葵の
 ちいし ちいし ちいし ちいし 花 枝

曹工六
 一
 三十二

松葉の事いふに野て小多の
 流可
 山吹やも葉をちてゆき一掃
 足急
 雲のくもりや菊の香
 化転
 好比
 梳れぬやあやとの香
 里中
 松の葉にこもる花
 菊
 菊
 菊
 菊

松葉の事いふに野て小多の
 流可
 山吹やも葉をちてゆき一掃
 足急
 雲のくもりや菊の香
 化転
 好比
 梳れぬやあやとの香
 里中
 松の葉にこもる花
 菊
 菊
 菊
 菊

諸国文通

松葉の事いふに野て小多の
 流可
 山吹やも葉をちてゆき一掃
 足急
 雲のくもりや菊の香
 化転
 好比
 梳れぬやあやとの香
 里中
 松の葉にこもる花
 菊
 菊
 菊
 菊

村をよみしに甲の妹名 全 羅角

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

あまのこゝろ 全 柳

土佐高知

如何

全 古慶

全 百曲

全 百川

全 河原

全 三草

全 九曲

月 ノト後田 共友

舟と里とらぬや 柳は 全 會津 當春

菊のまゝをりて 白のや 柳は 全 全 旭水

水澄てすの 園あり 全 全 柳山

深敷やちよとく 柳は 全 全 二日坊

山田の人の 柳は 全 全 浩笑

風やききり 柳は 全 全 午松

味くの 柳は 全 全 項楠

ひさの 柳は 全 全 午松

色あつち 柳は 全 全 文慈

ねむの 柳は 全 全 緝柳

きりぬや 柳は 全 全 澤子

らんぬ人 柳は 全 全 崇文

梅、きりぬや 柳は 全 全 秋天

渭江話卷七

洛東建鑑塔序

并供養

此しく世温塔の先師生か、故園羨濃、因
 山縣郡、黃山禪刹の西北園に造を、
 えより、
 祠堂と文星觀と、
 名と極、
 序文より、
 一

塔西に梅系新あふくく松音書誦一
永く燈塔のりくくとる世の侍り
物あり

供養言

乃之坊

きととよ日せり

月のかゝる塚

青花

所産三十餘事

洛陽

花れ雲乃小枝や供養の日

きの跡むにほろりかゝる塚全杜音

いとほれきむきや水の燈塚全仙行

花よろくく赤梅燈の佛より全山只

詞書略

幕よりりて隙あり花れ陰大津宰陀

ちるゆらむのゆきをよむ素名指云

ふりやうのふりやうのふりやう
尾名古屋 貞旭

ふりやうのふりやうのふりやう
全 菊衣

ふりやうのふりやうのふりやう
全 以之

ふりやうのふりやうのふりやう
全 華吹

ふりやうのふりやうのふりやう
全 宇狗

ふりやうのふりやうのふりやう
全 栞枝

ふりやうのふりやうのふりやう
全 之由

ふりやうのふりやうのふりやう
野紅

ふりやうのふりやうのふりやう
全 許夕

ふりやうのふりやうのふりやう
全 忘凡

ふりやうのふりやうのふりやう
全 三調

ふりやうのふりやうのふりやう
全 白竹

ふりやうのふりやうのふりやう
全 暮夕

ふりやうのふりやうのふりやう
全 知六

ふりやうのふりやうのふりやう
全 芳麻

ふりやうのふりやうのふりやう
全 鞍松

尾名古屋

ふしやうと悟りぬむれ程塚 義濃山方 聖た

ふしやうふしやうの佛も摘菜好 全 佳立

ふしやうふしやう供養やむれ吉 全 立監

ふしやう程やふしやうふしやう 月大垣 建意

指し餅も降るやむれ供養 全 東孝

ふしやうの御もふしやう供養れ目 全 丁杜

ふしやうふしやうふしやうの 全 素由

ふしやうふしやうふしやう 全 隆五

ふしやうのふしやうふしやう 書林 橋治

ふしやうふしやうのふしやう 全 双林るれ

ふしやうふしやうのふしやう 全 一と

ふしやうふしやうのふしやう 全 一と

ふしやうふしやうのふしやう 全 一と

ふしやうふしやうのふしやう 全 一と

ふしやうふしやうのふしやう 全 一と

ふしやうのふしやうのふしやう 何屋亭 高平

2021

七回遺悼

いへやま草保の既望よりさかへて
春の光をひらきし心算をて照し申きて
後七年の遠き一しては二續の世と
今や諸国の仇償もさるさるの世と
あゝ松崎東深の松崎とよみ人の
新とあゝさかへてはなほ
さかへてはなほ二つ人のまにほれ

いへやま草保の既望よりさかへて
春の光をひらきし心算をて照し申きて
後七年の遠き一しては二續の世と
今や諸国の仇償もさるさるの世と
あゝ松崎東深の松崎とよみ人の
新とあゝさかへてはなほ
さかへてはなほ二つ人のまにほれ

供乃枝寺前

いへやま草保の既望よりさかへて

正當八月十五日

いへやま草保の既望よりさかへて

濃北主

茅山人玉治

心

心
心
心
心

桐月廿六日調之



京寺町押小路書板
橋屋治兵衛板

[Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page]

